

太田東西かわら版

おんころころせんだりまとうぎそわか

2022. 6

病気で気弱になった 自分への挑戦



5月下旬、5泊6日で単身上京しました。
4件の治療院巡り。そして最終日の夜は、大学生時代からのファンである
ロックバンド LOUDNESS の40周年記念ライブに後輩と参戦しました。
とっても不安でしたが、すべての予定を遂行することができました（涙）。

ロックバンドのライブはクラシックコンサートとは違って、始まりからラストまで全員スタンディング。座っていたら総立ちの観客が壁になって舞台は観れません。

その5月26日のライブ。チケット発売は2月でした。2月は最も体調が優れない時期でした。東京の後輩から誘われ、行きたい気持ちはあるものの、2時間のスタンディングは無理。いや、もっとも上京自体が至難な状態でしたが、チケットが無駄になっても良いと思い購入していました。

そして5月を迎えましたが、なかなか体調は優れません。相変わらず眠れない夜が続き、ホットフラッシュ、慢性じんましんのかゆみに悩まされ、上京予定の前日まで決断できないでいました。



愛犬シルクとコザクラインコがいつも寄り添ってくれました(; ∇ ;)

病に伏しながら、ふと、あるお客様のことを思い出しました。首痛で頸椎ヘルニアと診断されて手術をすすめられていた女性。相談を受けた当時の私は、そのお客様にこうアドバイスしました。

「そのライブに、行ってみてから手術するか決めてみませんか？」

エリッククラプトンのファンで武道館でのライブがある。行きたい。行ってみたい。でも今、飛行機に乗る自信すらない。

「首に負担がかかって、余計に悪くなったらどうしよう・・・」

「飛行機の中で、痛みがひどくなったらどうしよう・・・」

行ってみたい気持ちよりも、不安・心配のほうが脳裏に浮かび、最悪のケースばかり考えてしまう。

でも私は、骨ではなく筋肉に原因があると診ました。精神的ストレスから首～肩の筋緊張状態が続いて、首回りが固くなってしまっていると。

「ライブ中、手拍子しながら首を振ることが出来るか？ 試してみるのです。大丈夫！必ず出来ますよ！このチャンス、逃さずに行動してみてください」

そのお客様は行動に移されました。

後日、お土産とともに、うれしい報告をいただきました。

「先生、行けました！無事に帰って来ました！飛行機の中でも、ライブ中も大丈夫でした！ライブ後半は首のことを忘れて、思いっきり楽しめました!!」

勇気ある体験から、お客様は自ら気づいたのです。

「レントゲンに写っていても、頸椎ヘルニアが一番の原因ではない。筋肉の緊張をゆるめる生活習慣と治療を心掛ければ、手術はしないで済む」

結果、そのとおりにになりました。

そして今度は太田憲一、“自らがそれを試される立場”となりました（苦笑）

座っていることも辛くてキツイ自分。その自分が単身上京して、しかも2時間立ちっぱなしのライブに参戦するなど無謀極まりない。

「止めておけ!」「何かあったらどうする!」。瞬時に心が反応します。

でも、そんな気弱になった自分に、不安・心配が先行する今の自分の生き方に“喝”を入れたかった。

そして「上京できるかできないか?」よりも、「ライブを観たいのかどうか?」それが一番に問われることです。

そのLOUDNESS（ラウドネス）とは、40年の付き合い。学生時代から薬局を立ち上げた25年前から、ラウドネスの曲に励まされて来ました。昨年発売された新譜の歌詞にも、どれだけ救われたか・・・。

「太陽の光浴びて、元氣だそう、クヨクヨしてもはじまらない。

太陽の光浴びて、やるせない心とか、吹き飛ばして～～」

これだけ薬を飲んでいるのに治らない、これだけ頑張っているのに一向に治らない、何をやっても治らない、あ～～また今日も辛い・・・・・・・・

そんなクヨクヨしていた自分を、やるせない心で滅入っていた自分を奮い立たせ、行動に移して吹き飛ばして来ました!!

「病気に、辛い症状にフォーカスし過ぎると病気は治らない」

今回、我が身を持って体験し気づいたことです。

誰だって早く健康になりたい。辛い思いはしたくない。しかし病気の自分に囚われ過ぎると、治すことばかり考え過ぎると、緊張状態が生み出され、自律神経が乱れて血流が阻害されて、自然に治る病気も治らなくなる。

病気であっても、絶好調ではなくても、「人生を楽しむ」ことを忘れない。深刻にならずに、優等生の患者とならずに、時には羽目を外してもいい。病気と闘うのではなく、それを受け入れて、気を楽しんで養生に励む。

「病気というのは、なかなか奥ゆかしいものだ」。悟った次第です。

LOUDNESSのメンバーは還暦を過ぎています。当日も「今、左足がピクピクついています」「年を取ったら翌日ではなく翌々日に腰に来る」正直に告白していました(笑)。五十肩で演奏できなくなったり、コロナでライブ活動も満足にできなくなった中でも頑張っている！音楽を続けている！



ライブ中、私は泣きました。彼らの頑張りとお辛かった自分がこの場に居ることに感動して。大粒の涙があふれてきました・・・😭



右、高崎晃は私の尊敬するギターリスト。
下、35年前の青春していた私😊



56歳の太田憲一。
病んでいても、おじさんになっても青春し続けます～～＼(^o^)/